

口腔保健と歯科疾患の重要性を明確化する

相 田 潤

Clarifying the importance of oral health and diseases

Jun Aida

疾病の公衆衛生上の重要性を明確にすることは、社会においてその疾病への対策に資源を費やすべきか決定する上で重要である。公衆衛生上の疾病の重要性の判断基準として、「疾病の罹患率の高さ」、「疾病の個人に対する影響の大きさ」、「疾病の社会に対する影響の大きさ」、「その疾病が予防可能であり、また効果的な治療が存在していること」の4項目が挙げられている^{1, 2)}。社会には様々な立場の人々が存在し、それぞれの立場で何を重要とするかが異なる場合があるが、これらの4つの観点から疾病の重要性を説明すれば、多くの人々に説得力を持つだろう。そして、この4つの観点から、口腔保健と歯科疾患は公衆衛生上非常に重要であると考えられる。

「疾病の罹患率の高さ」の観点からは、う蝕や歯周病、歯の喪失といった口腔保健状態は、極めて多くの人々に影響していることが挙げられる。世界保健機構（WHO）や欧米の大学など7つの機関の共同研究として実施された大規模調査である

「世界の疾病負担研究（The Global Burden of Disease (GBD) 2010 Study ; GDB2010)」では、調査された全291疾病の中で最も有病率が高かったのは未処置の永久歯う蝕（有病率35%）であることが示された³⁾。世界で最も多い疾患が、永久歯う蝕なのである。さらに重度の歯周疾患は6番目（有病率11%）、未処置の乳幼児う蝕は10番目（有病率9%）、残存歯数9本未満とした歯牙喪失は36位で2%の有病率だった。日本においても歯科疾患は依然として多い。1970年代から減少しているう蝕は、学校保健統計調査（文部科学省）では未だに小学校や幼稚園で最も多い疾患であり、平成25年の小学校での有病率は54%、幼稚園では40%に上る。厚生労働所の患者調査でも、歯科疾患の受療率が大きいことが示されている。「疾病の個人に対する影響の大きさ」では、ここで触れるまでもない近年注目される口腔の健康の全身への影響の他、就業や学業への影響が挙げられる。歯科疾患の症状や治療のために、仕事の効率が低下し休業も増え⁴⁾、また学校の成績が低い⁵⁾ことが示されている。歯科治療を適切に受ける介入により、就労状況が良くなる可能性も指摘されている⁶⁾。「疾病の社会に対する影響の大きさ」としては、罹患率が高いために国民医療費の総額が大きくなってしまったり、罹患率が高いために歯科在宅診療のニーズが今後ますます大きくなることや、健康格差も大きく表れることなどが挙げられる。特に、産業保健や学校保健の対象者が含まれ

【著者連絡先】

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町4番1号
東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野
相田 潤
TEL : 022-717-7639 FAX : 022-717-7644
E-mail : aidajun@m.tohoku.ac.jp

る64歳以下の歯科疾患の国民医療費(厚生労働省)は、がんや循環器疾患などの他のどの疾患よりも大きく、対策が求められる。「予防可能であり、また効果的な治療が存在していること」の点では、主な歯科疾患であるう蝕と歯周病には予防方法と、多くが国民皆保険制度でカバーされる治療が存在する。ただし、歯科医院での定期健診や禁煙治療、公衆衛生的な集団フッ化物洗口やシーラント、禁煙環境の実現や水道水フッロリデーションなどに、う蝕や歯周病の予防対策は諸外国に比べると十分に実施されているとも限らず、法的基盤の整備も含めた対策が求められる。

近年、口腔と全身の健康が注目されており、非常に重要なことではあるが、場面によってはそれ以外の観点から歯科疾患の重要性を説明していく方が効果的な場面もあるだろう。4つの観点について明確にして述べることは、様々な立場の人々を説得して歯科保健医療対策を実施する上で重要である。

文 献

- 1) Sheiham A, Oral health policy and prevention. In: Prevention of oral diseases. Edited by Murray J. Oxford : Oxford University Press ; 1996.
- 2) Daly B, Batchelor P, Treasure E et al : Essential Dental Public Health. 2nd edn, Oxford, Oxford University Press, 3-13, 2013.
- 3) Marcenes W, Kassebaum NJ, Bernabe E et al : Global burden of oral conditions in 1990-2010 : a systematic analysis. Journal of dental research 92 (7) : 592-597, 2013.
- 4) Harford J, Chrisopoulos S : Productivity losses from dental problems. Aust Dent J 57 (3) : 393-397, 2012.
- 5) Jackson SL, Vann WF, Jr., Kotch JB et al : Impact of poor oral health on children's school attendance and performance. Am J Public Health 101 (10) : 1900-1906, 2011.
- 6) Singhal S, Correa R, Quinonez C : The impact of dental treatment on employment outcomes: a systematic review. Health Policy 109 (1) : 88-96, 2013.